

お客様の声	株式会社 宮本鐵工所	
02	代表取締役 宮本直治 〒758-0213 山口県萩市黒川350-1 / ☎0838-52-5656 http://miyamoto-tekkou.com/ Mグレード／REAL4 2015年12月導入	



引き渡しまでのトータルな生産効率アップを実現!!

REAL4のすごさ、実感!! 祝50周年を機に、さらに一歩前へ

2014年に工場を増設。2018年には設立50周年を迎え、株式会社に組織変更。

株式会社 宮本鐵工所は厳しい時代も経ながら近年順調に業績を伸ばし、

REAL4導入後はトータルな生産効率アップ・コストダウンを実現しています。

宮本直治社長・宮本憲治専務・多田欣正管理課長に、データロジックの田中大嗣氏(DL)と共にお話をうかがいました。

S／FシステムとはDOS版のころからの長い付き合いで
すね?

社長:鉄骨専用CADシステムを開発されているデータロジックさんのことは早くから知っていて、当社も萩にある会社。いち早く取り入れるべきだ、と。でも、当社にとって厳しい時代があり、S／Fライナーの導入については時間がかかってしまいました。

REAL4の導入は2015年ですね?

社長:REAL4のことはもちろん知っていましたし、同業者からも情報が入っていました。積算・現寸作業・材料手配・生産管理・出荷・引き渡しに至るまでトータルにコーディネートさ

れたソフトだ、という認識はもっていたので、合理化には、もう不可欠だと判断し、導入を決めました。当社は、在来鉄骨建築だけでなく、株式会社 住金システム建築様の鉄骨を担う協力業者として全国各地の多くの仕事をさせていただいています。それらの仕事の生産効率を上げ、コストダウンを図っていくためREAL4を一気に導入したというわけです。

どんなことが便利になりましたか?

多田課長:特に管理にかかる時間が短くなり、とても助かっています。REAL4は工区別に出すことができたり、必要なものだけ抽出してすぐ出したりできるのがいい。今まで手作業でやっていたことを簡単にらせるので、とても便利です。

データロジックさんという会社が、自分たちと同じ萩にあることが、すごく誇らしいです。全国の鉄工所が助かっていると思います。

DL:ありがとうございます!

社長:一つの製品を作るのに必要なパーツが一つの紙資料で全部揃うので、指揮系統として明確に指示できるのがいいですね。パーツのウエイトが出るので、建方計画も立てやすい。輸送の配車の目安となったり、現場の作業効率を上げるための重機の配置であったり、安全管理にも役立っています。他に、管理資料としては製品検査表なども使っています。あらためて考えてみると、REAL4、すごいですね(笑)。導入後、作図だけの時間ではなく、引き渡しまでのトータルな時間が圧縮でき、生産効率が上がり、コストダウンにつながりました。生産効率は1.5倍以上良くなったように思います。以前とは全然違います。メリットはすごく大きいです。

多田課長:3Dの使い方として、原寸検査のときに、細部で気になるところがあれば、その部分を拡大して3Dで見せようと、設計者との意思疎通が早くでき、理解していただきながらものづくりができるので、とても役立っています。

S／FシステムをDOS版の時代から使ってこられて今どう感じていますか?

社長:ものすごく進化したと感じます。ライナーと比べても、REAL4は絶対的に良くなりました。自由度が高くなり、すごく楽になったと思います。

専務:従来からの工場に加え、平成26年に黒川工場(現在の本社)を設けました。従前は月400トン。現在は月500トン以上。以前は工場の限界もあり、100トン以上外注に出さないといけない状況でした。でも、2工場体制にしたことやREAL4の導入、人数が増えたこともあり、製作外注は減り、自社で500トン以上できるようになりました。REAL4のおかげです。

S／F積算システムは4台導入していただいていますね。

DL:どう使っておられるのですか?

宮本専務:社長と私と総務の2人で使っています。経費設定は私たちが教えますが、総務の2人は日々、請求書を見て鋼材単価を把握していますし、工事台帳も見てるので単なるオペレーターではなく、これから当社の人材としてさらに活躍してもらいたいため、積算システムを教育ツールとしても



左:宮本社長 / 右:多田課長



上: / 社員の皆さん 左下:黒川工場空撮 / 右下:社内風景

使っている感じです。仕事は分かった方が絶対に面白いですから。最終的には工事台帳と積算の突合せができるようにしたいと思っています。

社長:いわば業務の見える化ですね。

専務:タイムカードもやめ、自動的に読み取るシステムに変えました。今日現在の一工事に対する総労働時間、時間単価も総務に入れてもらっています。

専務:作業効率が良くなり、残業時間が減ったのは、REAL4のおかげです。特に設計は残業時間がかなり減りました。

社長:目標の時間が立てやすくなりましたね。

今後に向けての思いを。

社長:当社は厳しい時代もありましたが、人との出会いに恵まれ、人に助けられ、2018年に設立50周年を迎えることができました。それを機に掲げたスローガンは「粘り強さ」。「ひとつ耐えて一歩。ひとつ耐えて一歩」という一人一人の前進が組織の力となる。そういう思いで進んでいきます。私、実はラグビーが好きなんです(笑)。

また、地元の萩出身の吉田松陰の言葉に「夢なき者に成功なし」といった意味の言葉があるそうです。理想・計画・実行があって成功へ。まさにPDCAサイクル(plan-do-check-action)です。そのことはいつも私の中にあります。

2018年7月には設立50周年を機に、株式会社へと組織変更し、会社のロゴマークを作り、会社内の部署も整備しました。これからの有能な人材確保、人材育成も考えてのことです。データロジックさんのソフトは、まだ進化していく可能性があると感じています。我々もクオリティの高い、効率的なもののづくりへ向けて、これからも進化への努力を続けていきたいと思っています。